財団法人日本自転車競技連盟広報誌

Cyclism echo
シクリスムエコー

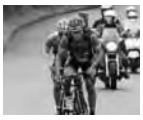
www.jcf.or.jp

全日本選手権ロード。シマノ２人を抑えNippoの宮澤が優勝（チームメイトの佐野も後ろでバンザイ！）

シクリスムエコー No.171　2010 年 7 月号

第 13 回全日本自転車競技選手権大会ロードレース …… 2

第 79 回全日本アマチュア選手権ロードレース …… 5


第 15 回ジュニア全日本選手権ロードレース …… 6

2010 年全日本選手権個人タイムトライアル…… 7

ACC トラックアジアカップ 2010 日本ラウンド …… 8

ACC トラックアジアカップ 2010 マレーシアラウンド・12

クルス・ド・ラ・ペ・ジュニオール ……14
UCI サイクルサッカー・ワールドカップ鹿児島大会 ……16
新評議員の紹介／新理事の紹介 ……16
競技大会結果 ……17
平成 22 年度事業計画の追加について ……18
日本新記録／連盟の動き ……19
アジアカップ日本ラウンド PHOTO ……20

KEIRIN

この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

http://ringring-keirin.jp

第 13 回全日本自転車競技選手権大会ロードレース

NIPPO の宮澤が初優勝！

KEIRIN
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

男子のメイン集団

今年もツール出場の新城（先頭）

男子ゴール後の宮澤

6 月 27 日、広島・中央森林公園において、第 13 回全日本自転車競技選手権大会ロードレースが開催された。

午前 8 時、12.3km のコースを 7 周する女子クラスがスタート。2 週間前に個人 TT を制した萩原（アサヒ）が早々と独走態勢となり、そのままフィニッシュした。また、女子ジュニアクラスは福本（Ready Go JAPAN）が 1 位となった。

11 時 15 分、コースを 16 周する男子クラスがスタート。途中、阿部（シマノ）と越海（日大）2 名の逃げなどがあったが、最終的にはいずれもきまらなかった。終盤、西谷（愛三）、飯島（BS）、佐野（NIPPO）、平塚（シマノ）の逃げがきまり、そこへ、鈴木・野寺（シマノ）、増田・宮澤（NIPPO）、清水（BS）等が合流。最後は NIPPO2 名（宮澤・佐野）、シマノ 2 名（鈴木・野寺）と BS 清水のゴールスプリントとなり、宮澤が見事スプリントを決め初優勝。、チームメイトの佐野も自分の事のように喜びを表してフィニッシュした。

また、今大会で引退しシマノの監督に就任する野寺（今回 3 位入賞）の引退セレモニーが、大会終了後に表彰ステージで行われた。

萩原を追う女子のメイン集団

男子、逃げる４人の集団
（西谷、佐野、飯島、陰に平塚）

男子のメイン集団

展望台の登りを行く男子のメイン集団

女子のスタート前

女子、独走する萩原

引退セレモニーの野寺

女子ジュニアの勝者、福本

[競技結果]

第13回全日本自転車競技選手権大会ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（2010/6/27 広島・中央森林公園）

男子（196.8km）

1	宮沢	崇史	長野	NIPPO	5:14:03
2	鈴木	真理	JPCA	ｼﾏﾉ	5:14:03
3	野寺	秀徳	JPCA	ｼﾏﾉ	5:14:03

4	佐野	淳哉	埼玉	NIPPO	5:14:04
5	清水	都貴	埼玉	BS ｱﾝｶｰ	5:14:07
6	西谷	泰治	愛知	愛三工業	5:14:15
7	平塚	吉光	静岡	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	5:14:42
8	飯島	誠	JPCA	BS ｱﾝｶｰ	5:15:13
9	増田	成幸	宮城	NIPPO	5:15:20
10	中村	誠	栃木	ﾌﾞﾘｯﾂｪﾝ	5:16:06

女子（86.1km）

1	萩原麻由子		大阪	あさひ	2:34:18
2	西	加南子	千葉	Luminaria	2:34:55
3	片山	梨絵	神奈川	Specialized	2:34:56

4	牧瀬	翼	佐賀	あさひ	2:34:58
5	明珍	裕子	岐阜	朝日大	2:36:00
6	高橋	奈美	宮城	SEKI	2:36:42
7	上野	みなみ	青森	鹿屋体大	2:37:35
8	金子	広美	東京	ｲﾒｰﾅｱｲﾗﾝﾄﾞ	2:37:48
9	森本	朱美	鳥取	ｽﾐﾀ・ﾗﾊﾞﾈﾛ	2:40:29
10	豊岡	英子	大阪	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸL	2:42:59

女子ｼﾞｭﾆｱ（86.1km）

1	福本	千佳	大阪	ReadyGoJ.	2:44:40
2	青木志都加		京都	北桑田高	2:52:58
3	中村	友香	奈良	奈良北高	2:59:07

第 79 回全日本アマチュア選手権ロードレース

雨の中、山本元喜が勝利！

KEIRIN
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

先頭集団を引く山本

先頭集団を必死に追う野口

土砂降りの中ゴールする山本

6 月 26 日、広島・中央森林公園において、第 79 回全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロードレースが開催された。

午前中にジュニア全日本ロードが行われた後、12時ちょうどに13周のレースがスタートした。

今大会該当選手でも翌日の全日本ロードへの参加が可能なため 20 数名がそちらへ出場、少し寂しい大会となってしまった。

早い段階で先頭集団は、山本（鹿屋）、小黒（環太平洋）、海藤（エルドラード）、原川・佐藤（ベルマーレ）、西沢（明治）、福田（大阪経済）、松尾（CKT）の 8 名に絞られた。そこから松尾と佐藤が遅れ、その後、小黒、西沢も遅れる。後ろからは、野口（鹿屋）、小坂（ブリッツェン）、寺崎（BS）が追ってくる。そして海藤が第 2 集団へ落ちる。その後、福田も遅れ、山本と原川の一騎打ちとなる。

最後、土砂降りのフィニッシュへ戻って来たのは山本元喜だった。そして完走者はわずか15名という大会であった。

[競技結果]

第79回全日本ｱﾏﾁｭｱ自転車競技選手権大会ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（2010/6/26 広島・中央森林公園）

Under 23（159.9km）

1	山本	元喜	奈良	鹿屋体大	4:27:13
2	原川	浩介	埼玉	湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚ	4:27:27
3	野口	正則	奈良	鹿屋体大	4:28:19

4	小坂	光	長野	ﾌﾞﾘｯﾂｪﾝ	4:28:21
5	福田	高志	兵庫	大阪経済大	4:28:37
6	海藤	稜馬	山形	ｴﾙﾄﾞﾗｰﾄﾞ	4:28:38
7	寺崎	武郎	福井	BS ｴｽﾎﾟﾜｰﾙ	4:30:48
8	佐藤	知紀	埼玉	湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚ	4:36:43
9	小黒	祐也	新潟	環太平洋大	4:37:17
10	宇野	誓	京都	京都大	4:37:24

第 15 回ジュニア全日本選手権ロードレース

別府商高の池部が優勝！

KEIRIN
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

後続に40秒の差をつけた池部

逃げる池部と中井

6 月 26 日、広島・中央森林公園において、第 15 回ジュニア全日本選手権ロードレースが開催された。

午前 8 時に 10 周 123km のジュニアクラスがスタート、8 時 3 分に 5 周 61.5km の U17 クラスがスタートした。

ジュニアクラスでは別府商高の池部が早い時期に逃げ、そこへ榛生昇陽の中井が追いつく。その後ろを北桑田の徳田が追う。その後、BSの清水が徳田に追いつくが、2人とも先頭までには届かない。結局、池部がその後独走となりフィニッシュした。

U17 クラスでは、スタート直後から湘南ベルマーレの内野が抜け出し、2 位に 3 分弱の差を付けて優勝した。

U17 独走の内野

[競技結果]

第 15 回ｼﾞｭﾆｱ全日本選手権ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ
（2010/6/26 広島・中央森林公園）

ｼﾞｭﾆｱ（123.0km）

1	池部	壮太	大分	別府商高	3:24:14
2	久保田	元気	福島	学法石川高	3:24:53
3	中井	俊亮	奈良	榛生昇陽高	3:24:56

4	我妻	優弥	福島	学法石川高	3:24:56
5	河賀	雄大	広島	広島城北高	3:24:57
6	横谷	直人	大分	日出暘谷高	3:24:57
7	辻本	尚希	東京	順天堂大	3:24:58
8	徳田	鍛造	京都	北桑田高	3:26:11
9	市山	襄	神奈川	法政二高	3:26:33
10	清水	啓佑	東京	日大豊山高	3:28:52

U17（61.5km）

1	内野	直也	埼玉	湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚ	1:39:56
2	帖地	森	京都	北桑田高	1:42:47
3	小橋	勇利	愛媛	松山工高	1:42:50

4	江越	岳也	神奈川	横浜高	1:43:39
5	青野	将大	香川	高松工芸高	1:43:39
6	長谷部	大和	奈良	榛生昇陽高	1:43:41
7	小山	貴大	群馬	旭中	1:43:43
8	岡本	隼	神奈川	左近山中	1:46:31
9	緑川	裕也	福島	修明高	1:47:25
10	西尾	勇人	北海道	札幌拓北高	1:47:28

U17 のスタート

2010 年全日本選手権個人タイムトライアル

男子は福島晋一が優勝！

KEIRIN
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

男子優勝の福島

女子優勝の萩原

6月13日に秋田県大潟村ソーラースポーツラインで全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレースが開催された。

男子エリートは、福島晋一（JPCA・クムサンジンセンアジア）が大会記録を更新し初優勝を飾った。2位には福島選手と同じチームの奈良 基(宮城)が入った。また女子は萩原麻由子（大阪・サイクルベースあさひ）が大会3連覇を達成した。

[競技結果]

2010年全日本選手権個人ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ・ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ（2010/6/13 秋田・大潟）

男子ｴﾘｰﾄ（30km）

1 福島 晋一 JPCA ｸﾑｻﾝｼﾞﾝｾﾝ 38:07:758
2 奈良 基 宮城 ｸﾑｻﾝｼﾞﾝｾﾝ 38:33.686
3 飯島 誠 JPCA BS ｱﾝｶｰ 38:38.567

4 盛 一大 愛知 愛三工業 38:40.509
5 村上 純平 山形 ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ 38:54.978
6 西谷 泰治 愛知 愛三工業 38:59.668
7 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 39:32.952
8 松村 光浩 和歌山 愛三工業 39:59.940
9 飯野 嘉則 東京 ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ 40:06.987
10 米山 一輝 茨城 ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ 40:12.742

女子ｴﾘｰﾄ（16.5km）

1 萩原麻由子 大阪 あさひ 23:16.280

2 豊岡 英子 大阪 ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ 24:38.946
3 堀 記理子 大阪 ｼﾙﾍﾞｽﾄ 25:08.003
4 堀 友紀代 神奈川 ReadyGoJ 25:43.899
5 高橋 奈美 宮城 SEKI 25:54.993
6 和地 恵美 神奈川 たかだ F 26:34.564
7 佐藤 咲子 神奈川 ReadyGoJ 26:38.444
8 武田 和佳 埼玉 ReadyGoJ 26:51.396
9 石川 千嘉 埼玉 ｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ 27:20.784

男子 U23（30km）

1 嶌田 義明 埼玉 BS ｴｽﾎﾟ 40:07.058
2 高宮 正嗣 鹿児島 鹿屋体大 40:19.318
3 郡司 昌紀 埼玉 中央大 41:23.334
4 木下 智裕 神奈川 VendeeU 42:18.290
5 小坂 光 長野 ﾌﾞﾘｯﾂｪﾝ 42:34.893
6 竹之内 悠 京都 Eurasia 42:45.182
7 福田 高志 兵庫 大阪経大 43:39.515

男子ｼﾞｭﾆｱ（20km）

1 深田 洋幸 秋田 大曲農高 29:21.910
2 加賀谷慶治 秋田 能代西高 29:50.413
3 佐々木 康 宮城 ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ 29:57.268
4 石原 裕也 千葉 習志野高 30:41.594

男子 U17（16.5km）

1 内野 直也 埼玉 ﾍﾞﾙﾏｰﾚ 22:49.072
2 橋詰 丈 東京 志学館中 25:17.427

ACCトラック・アジアカップ 2010 日本ラウンド

アジアカップポイント第１位！

KEIRIN

この大会は競輪の補助金を受けて実施されました

男子4km団体追抜１位の脇本･窪木･元砂･佐々木（左から）

男子スプリント１位の北津留

男子1kmTT1位の雨谷

男子オムニアム1位の佐々木

男子オムニアム
1位の佐々木（中央）
5位の元砂（右端）

男子ケイリン4位の深谷

男子スプリント4位の深谷

男子ジュニア ポイントレース3位の高宮（左）

6月12日から14日まで、ACCトラックアジアカップ日本ラウンドが函館競輪場で行われた。この大会は、UCIが提唱する世界的なトラックレースの活性化に対する、アジア地域の普及と発展を目的としたものである。今年は6月下旬にマレーシア、9月にタイで予定されている。日本開催とあってエリート選手は、9日に集合し短期合宿を組み、ジュニア選手は11日から現地入りし、総勢20名が参加した。今回はジュニアカテゴリーが追加され、海外から10カ国56名の選手が来日した。

12日9時、女子ジュニアスプリントから競技は開始された。アジアを含めた国際大会は、それぞれの種目競技を予選から決勝まで一日で行ってしまうスタイルである。オリンピック種目であるオムニアム種目の導入とともに、国内大会も国際大会に合わせていく必要性を感じる。スプリント女子ジュニアはエントリー3名と寂しいが、最終成績として中村妃智が2位、丸田京が3位。男子ジュニアは坂本将太郎と伊藤裕貴が決勝で顔を合わせ、坂本が優勝。エリート女子は予選2位通過の石井寛子と4位通過の前田佳代乃が3～4位決定戦で対戦。前田が勝って3位となった。優勝は、予選1位の実力を発揮したLEE Wai Szeであった。男子エリートは北津留翼と深谷知広が予選1、2位で通過。1/2決勝で深谷はケイリン世界選メダリスト、マレーシアのアワンに敗れ3～4位決定戦へ。1本目先取の後、2本目も先着したものの後に降格と判定される。微妙な判定に抗議をしたが、聞き入れられなかった。決勝では北津留がアワンを破り優勝を飾った。

同日に団体追抜競走も行われ、女子は井上玲美・田中まい・上野みなみが3分52秒103、男子は脇本雄太・窪木一茂・佐々木龍・元砂勇雪が4分28秒711で、男女ともに優勝を果たした。しかし世界でメダルを狙うには、女子は3分25秒、男子においては4分を切らなくてはならない。

2日目はチームスプリントから競技が始まった。女子は前田・石井が3～4位決定戦で4位。男子は深谷・北津留・雨谷一樹の初組合せで、予選は1走深谷のダッシュに2走北津留が離れ気味であったが1位通過。400m走路を26秒台で周回した深谷のダッシュは素晴らしい。だが決勝ではマレーシアに惜敗して2位に終わった。ジュニア男子は坂本・大西貴晃・木村弘で臨み優勝。ジュニア女子も1チームであったが丸田・中村が出走した。

1kmタイムトライアルは男子エリートの雨谷が1分07秒140、ジュニア男子の大西が1分08秒244でそれぞれ優勝。女子500mはジュニアの丸田が40秒897、エリートの前田が36秒428でそれぞれ2位であった。

ケイリンはエリート男子のみ1回戦が行われ、3着までが決勝へ進む。第1組に出場した北津留は1コースを引いた。1コースの選手はデルニモータ

男子ジュニア ケイリン1位の伊藤（左端）、2位の木村（右から2番目）

男子ジュニア 1kmTT1位の大西

男子ジュニア スプリント決勝
1位の坂本（右）と2位の伊藤

女子団体追抜1位の井上･上野･田中（左から）

バイクを誰も追走しない場合は、追走する義務がある。この違反行為は本年から失格と厳罰化された。号砲後、他の選手が北津留より前に出て、デルニバイクを追いかけているようにチーム関係者の目には映った。しかし審判の判断は異なり、号砲が再び鳴らされレースが中断して、北津留は除外されてしまった。最終的には審判の判定に従うが、本人はもとより日本チームスタッフには腑に落ちない判定であった。深谷は1回戦を快勝し，翌日の決勝ラウンドに駒を進めた。

オムニアム男子には佐々木と元砂、女子には上野と井上が出場。2日間で6種目を走り切る体力と、短距離から長距離種目までオールラウンドにこなす走力が必要とされる。フライングLAPの女子は上野が8位、井上が9位。男子は元砂が4位、佐々木が5位であった。ポイントレースでは上野が積極的なレース展開で26点獲得し、1位と同点であるもののゴール着順差で2位となり、井上は9位。男子は元砂が4位、佐々木が5位であったが、スタッフが男子リザルトの周回アップのミスを発見し、このことは後に大きく勝敗に影響する。エリミネイションでは上野7位、井上9位、元砂1位、佐々木2位で2日目を終わる。

途中経過では上野5位、井上9位、元砂、佐々木は同点で1・2位である。アジアカップ総合は断トツで日本がリードしたが、男女ケイリン決勝やオムニアム最終順位の行方は気になるところである。競技が始まる前に、昨日終了したオムニアム男子ポイントレースの結果について異議を申し立てた。審議の結果、訂正リザルトが発行された。大会最終日、オムニアムは個人追抜、スクラッチ、そしてファイナルはタイムトライアルである。もし同点の場合タイムレース合計タイムで順位が決するため、特にタイム差が開きやすい個人追抜は大変重要である。佐々木が4分55秒197で3位、元砂が4分55秒758で5位と順位を落としてしまう。スクラッチはそれぞれ2位、7位であった。

ケイリンはジュニア男子が伊藤、木村で1、2位を占め、エリート男子は深谷がデルニバイク退避後果敢に1周回積極的に先行したが4着。女子は石井と前田が出場したが、それぞれ4位と6位であった。

ポイントレースはジュニア男子のみが4名で行われ、高宮佑介が出場して18点獲得の3位。オムニアムは最終種目の男子1km、女子500mが行われた。女子の井上は朝から体調を崩し欠場。この競技は相当な体力を要求される。男子は佐々木が2位となり、オムニアム優勝を飾った。元砂4位、上野5位の最終成績で全ての競技日程を終了した。参加した選手達もここでの経験を活かし、更なる競技力の向上に努めてもらいたい。今後の強化対策として、エリート短距離・中距離ともに、基本的に毎月1回強化合宿が予定されている。　（監督　折本 裕樹）

女子スプリント
3位前田（左）
4位石井の対戦

女子ジュニア チームスプリント1位の
丸田（左）と中村

女子ケイリン4位の石井（左）

[競技結果]

ACCﾄﾗｯｸ・ｱｼﾞｱｶｯﾌﾟ 2010日本ﾗｳﾝﾄﾞ
（2010/6/12-14 北海道・函館競輪場）

男子ｴﾘｰﾄ ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 北津留　翼　JPCA 福岡
2 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
3 MD YUNOS Muhammad Edrus MAS
4 深谷　知広　JPCA 愛知

男子ｴﾘｰﾄ 1km ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 雨谷　一樹　JPCA 栃木　1:07.140
2 MD YUNOS Muhammad Edrus MAS　1:08.198
3 OKRAM Bikram Singh IND　1:09.335

男子ｴﾘｰﾄ ｹｲﾘﾝ
1 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
2 CHOI Woo Min　KOR
3 MD YUNOS Muhammad Edrus MAS
4 深谷　知広　JPCA 愛知

男子ｴﾘｰﾄ ｵﾑﾆｱﾑ
1 佐々木　龍　神奈川 早稲田大学　16
2 KWOK Ho Ting Marco HKG　18
3 WU Po Hung　TPE　23
5 元砂　勇雪　奈良 鹿屋体育大学　25

男子ｴﾘｰﾄ ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 ﾏﾚｰｼｱ　1:17.183
2 日　本　深谷・北津留・雨谷　1:17.247
3 大韓民国　1:22.892

男子ｴﾘｰﾄ 4km 団体追抜競走
1 日本　脇本・窪木・佐々木・元砂 4:28.711
2 ﾁｬｲﾆｰｽﾞ・ﾀｲﾍﾟｲ　TPE　4:31.836
3 ﾎﾝｺﾝ・ﾁｬｲﾅ　HKG　4:31.155

女子ｴﾘｰﾄ 500m ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 LEE Wai Sze　HKG　35.360
2 前田佳代乃　鹿児島 鹿屋体育大　36:428
3 HUANG TING Ying TPE　36:847

女子ｴﾘｰﾄ ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 LEE Wai Sze　HKG
2 HUANG TING Ying TPE
3 前田佳代乃　鹿児島 鹿屋体育大学
4 石井　寛子　茨城 ｽｰﾊﾟｰK ｱｽﾘｰﾄﾗﾎﾞ

女子ｴﾘｰﾄ ｹｲﾘﾝ
1 MANEEPHAN Jutatip THA
2 LEE Wai Sze　HKG
3 HUANG TING Ying TPE
4 石井　寛子　茨城 ｽｰﾊﾟｰK ｱｽﾘｰﾄﾗﾎﾞ
6 前田佳代乃　鹿児島 鹿屋体育大学

女子ｴﾘｰﾄ ｵﾑﾆｱﾑ
1 DIAO Xiaojuan　HKG　10
2 I Fang Ju　TPE　20
3 TRI KUSUMA Santia INA　22
6 上野みなみ　青森 鹿屋体育大学　32
井上　玲美　東京 ﾁｰﾑﾌｫｰｶｽ　-

女子ｴﾘｰﾄ ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 ﾁｬｲﾆｰｽﾞ・ﾀｲﾍﾟｲ　56:357
2 ﾎﾝｺﾝ・ﾁｬｲﾅ　57:260
3 ﾀｲ　58:488
4 日　本　石井・前田　1:00.882

女子ｴﾘｰﾄ 3 km団体追抜競走
1 日　本　井上・田中・上野　3:52.103
2 ﾎﾝｺﾝ・ﾁｬｲﾅ　3:53.362
3 ﾀｲ　3:56.675
4 ｲﾝﾄﾞ　4:10.799

男子ｼﾞｭﾆｱ ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 坂本将太郎　栃木 作新学院高校
2 伊藤　裕貴　三重 日本競輪学校
3 CHEUNG Joy Lai HKG

男子ｼﾞｭﾆｱ 1km ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 大西　貴晃　大分 日出暘谷　1:08.244
2 PENG Yuan Tang TPE　1:09.815
3 GUMEROV Timur UZB　1:11.040

男子ｼﾞｭﾆｱ ｹｲﾘﾝ
1 伊藤　裕貴　三重 日本競輪学校
2 木村　弘　青森 日本競輪学校
3 CHEUNG Joy Lai HKG

男子ｼﾞｭﾆｱ ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（16km）
1 GUMEROV Timur UZB　48p
2 PENG Yuan Tang TPE　25p
3 高宮　佑介　宮城 南光学園東北高　18p

男子ｼﾞｭﾆｱ ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 日　本　木村・坂本・大西　1:18.163
2 ﾎﾝｺﾝ・ﾁｬｲﾅ　1:22.691

女子ｼﾞｭﾆｱ 500m ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 LIN Chia Hui　TPE　39:412
2 丸田　京　東京 共立女子二　40:897

女子ｼﾞｭﾆｱ ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 LIN Chia Hui　TPE
2 中村　妃智　千葉 千葉経大附属高校
3 丸田　京　東京 共立女子第二高校

女子ｼﾞｭﾆｱ ｹｲﾘﾝ
1 中村　妃智　千葉 千葉経大附属高校
2 LIN Chia Hui　TPE
3 岩田　知夏　京都 北桑田高校

女子ｼﾞｭﾆｱ ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 日　本　丸田・中村　1:03.432

団体総合成績
1 日　本　259p
2 ﾎﾝｺﾝ・ﾁｬｲﾅ　140p
3 ﾁｬｲﾆｰｽﾞ・ﾀｲﾍﾟｲ　127p

ACCトラック・アジアカップ2010マレーシアラウンド

深谷がスプリント・ケイリン・チームスプリントの３冠！

KEIRIN
この事業は競輪の補助金を受けて実施されました

男子ケイリン

ACCトラックアジアカップ第２戦は、マレーシア・クアラルンプールへと会場を移し、６月25日から27日まで開催された。

当初は２日間大会でジュニアカテゴリーは未実施の予定で、また全日本ロードと日程がバッティングしているという条件で、選手派遣の準備を進めた。結局派遣選手は短距離中心とし男子３名、女子３名の編成であった。男子選手では浅井康太が予定されていたが、落車事故の影響で派遣を外し、函館大会の参加経験がある雨谷一樹が抜擢された。

スタッフ４名を含む10名の選手団構成で23日に日本を出発し、29日帰国までの派遣計画である。現地からのインフォメーションが少なく、情報収集しながらの対応であった。

マレーシアのバンク走路は、屋外コンクリートの周長333.3mである。日本の競輪場のようにウォークトップ仕上げもしておらず、走路は波を打っている。走路や選手ピット付近も含めて小石を砕いたような砂があり、タイヤにめり込むとパンクの原因となる。だからどんなに強い選手でも自分で自転車は担ぎ、タイヤの砂を払う習慣がある。

24日午後3時からライセンスコントロール、4時から監督会議が予定されていた。ライセンスコントロールは終了したが4カ国しか集まらず、監督会議が19:30へ変更された。日本国内と基本的に大きく違い、多くの参加国の賛成や反対があれば、いとも簡単に重要事項が変更されてしまう。日本からは朝食時間やシャトルバス出発時刻の変更、更に同選手が多数種目へ出場のため、タイムテーブルの配慮を提案したらすんなりと対応してくれた。

25日、前日の雨の影響で路面が濡れている。従ってローラーアップで臨んだ。9時15分からスプリント予選で、女子は沼部早紀子が12秒788の7位、前田佳代乃が12秒532の6位であった。ちなみにホンコンと韓国2名の3名の選手が、この走路で11秒9台の記録を出している。男子は柴崎淳が10秒791で2位、深谷知広が10秒940で3位通過し、両名が勝ち上がると1/2決勝で顔を合わせる結果となった。そして1/4決勝で両者は共に勝ち上がり、1/2決勝での対戦が決まった。沼部と前田はそれぞれ韓国選手と対決したが力の差に敗退し、5～8位決定戦へ。

午後から予定されているスプリントの対戦は、この地域特有のスコールにより中断され、最終的には翌日へ競技は順延となってしまった。走路が濡れてしまうと競技ができない国内事情は日本と大きく異なる。

第２日目の26日、競技は9時から女子団体追抜競走で始まった。日本はエントリーしていないが、優勝は韓国で3分47秒443、2位ホンコンも3分50秒174と、日本ラウンド開催時の日本女子チームよりも早かった。

男子スプリント1/2決勝は前述の通り、日本人同士の対戦で深谷が2勝し、決勝へ駒を進めた。決勝戦では韓国Ryu Jae Yeolと対戦。同選手は予選を10秒623で1位通過した選手である。だが決勝では、深谷は力の差を見せつけ、2本先取し優勝を飾った。3～4位決定戦も柴崎が圧勝した。女子スプリントは沼部、前田、ホンコン、タイの選手で5～8位決定戦。前田がうまく沼部を逃がしながら後続を抑え、沼部が5位、前田は6位となった。

1時間後に女子チームスプリント予選にその沼部と前田が出場し、49秒164で4位だったが、相手チームが交代違反のため降格となり3位となった。1位は韓国で47秒443だった。男子予選は柴崎・雨谷・深谷で臨み、03秒差で2位。決勝では出走順番を変え、雨谷・柴崎・深谷で臨み逆に0.1秒差で優勝を収めた。

ケイリン1回戦は柴崎1着、深谷3着で決勝へ進出。500mタイムトライアルは前田が37秒492で3位。1kmタイムトライアルは雨谷が1分07秒178で2位であった。一人の選手が何種目も走るレースは相当な疲労感をもたらせているが他国も同様条件である。

オムニアム女子は石井寛子が出場、フライングラップは6月18日にUCIルール改正があり、最大250mのタイム測定で行われた。石井は15秒773で3位、ポイントレース4位、エリミネイション5位で2日目の競技をを終えた。

大会最終日、競技開始時刻が1時間遅れとなった。スポーツ大臣の表彰式出席のために遅れたらしいが、多くの選手団には知らされていないなどハプニングは続いた。10時から始まったオムニアム3km個人追抜に出場した石井は、1周目から目標LAPタイムで走れず、ゴールまで決死に力走したが4分18秒500と7名中7位。スクラッチでは4位と健闘し、総合では3位と1点差の4位である。ファイナルの500mTTは38秒532で石井

は総合５位で競技を終えた。ACCカップ総合は韓国が１位、日本は２位であった。

アジアカップ大会は早朝から夕方まで拘束時間が長く、しかも多くの種目に何回も出走する状況下でパフォーマンスを発揮しなければならない。トラック競技の普及目的で始まった本大会も、段々と有力選手の出場やアジア諸国の強化を試す場として変わりつつある。参加は日本を入れて８カ国58名であった。日本選手団に落車等けがもなく無事に29日帰国した。

（監督　折本 裕樹）

男子1kmTT表彰の雨谷（左）

男子ケイリン表彰の深谷（中央）と柴崎（右）

男子スプリント表彰の深谷（中央）と柴崎（右）

女子500mTT表彰の前田（右）

［競技結果］
ACC ﾄﾗｯｸｱｼﾞｱｶｯﾌﾟ 2010 ﾏﾚｰｼｱ ﾗｳﾝﾄﾞ
(2010/6/25-27 ﾏﾚｰｼｱ・ｸｱﾗﾙﾝﾌﾟｰﾙ)

＜男子ｴﾘｰﾄ＞

ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 深谷　知広 JPCA 愛知
2 RYU Jae Yeol KOR
3 柴崎　淳 JPCA 三重

1km ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 KIM Je Yeong KOR 1:06.793
2 雨谷　一樹 JPCA 栃木 1:07.178
3 ALI ASKARI Ali KOR 1:07.937

ｹｲﾘﾝ
1 深谷　知広 JPCA 愛知
2 PARASH Mahmoud IRI
3 柴崎　淳 JPCA 三重

ｵﾑﾆｱﾑ
1 CHOI Seung Woo KOR 13
2 KWOK Ho Ting Marco HKG 14
3 TUYCHIEV Vladimir UZB 19

ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 日　本　雨谷・柴崎・深谷 1:03.322
2 IRAN 1:03.421
3 KOREA 1:03.756

4km 団体追抜競走
1 KOREA 追抜勝
2 HONG KONG

＜女子ｴﾘｰﾄ＞

500m ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 LEE Wai Sze HKG 36.092
2 LEE Min Jung KOR 37.056
3 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 37.492

ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 PARK Eunmi KOR
2 LEE Wai Sze HKG
3 MANEEPHAN Jutatip THA
5 沼部早紀子 静岡 ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ ARIAKE
6 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学

ｹｲﾘﾝ
1 PARK Eunmi KOR
2 LEE Wai Sze HKG
3 CHANAKAN Srichaum THA
4 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学
5 沼部早紀子 静岡 ﾏｯﾄﾍﾞﾛｰﾁｪ ARIAKE

ｵﾑﾆｱﾑ
1 DIAO Xiaojuan HKG 15
2 LEE Ae Jung KOR 18
3 KIM Eun Hee KOR 19
5 石井　寛子 茨城 ｽｰﾊﾟｰK ｱｽﾘｰﾄﾗﾎﾞ 27

ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 KOREA 47.863
2 THAILAND 47.948
3 日　本　石井・沼部 49.164

3 km団体追抜競走
1 KOREA 3:47.296
2 HONG KONG 3:50.174
3 THAILAND 3:58.258

＜男子ｼﾞｭﾆｱ＞

ｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 ZAID Mohd Fattah Amri MAS
2 AMRAN Muhd Arfy Qhairant MAS
3 JEBRAIELILAEGAN Seyed Reza IRI

1km ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
1 SIANYLAM Satjakul THA 1:09.790
2 MORSHEDLOO Ali IRI 1:10.864
3 ABD KADIR Muhd Mustaqim MAS 1:11.827

ｹｲﾘﾝ
1 AMRAN Muhd Arfy Qhairant MAS
2 ZAID Mohd Fattah Amri MAS
3 JEBRAIELILAEGAN Seyed Reza IRI

ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ（16 km）
1 SIANYLAM Satjakul THA 54p
2 GUMEROV Timur UZB 37p
3 AMRAN Muhd Arfy Qhairant MAS 21p

ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ
1 MALAYSIA 1:06.249
2 IRAN 1:06.948

＜ﾏﾚｰｼｱﾗｳﾝﾄﾞ総合成績＞
1 KOREA 146
2 日　本 99
3 MALAYSIA 92

クルス・ド・ラ・ペ・ジュニオール

個人TTに大きな課題を残す

5月5日から9日までチェコで行なわれた第39回Course de la Paix Juniors(ジュニア・ネイションズカップ2戦目)にナショナルチームが参加した。ジュニア強化指定選手の中から登り、下りをこなせる6選手を選出して、4月中旬には5日間の合宿を行ないこのレースに備えた。出場選手は、黒枝・六峰・長瀬・西川・中井・池部の6名。

参加は世界の強豪26チーム、156人。昨年のジュニア世界選ロード優勝者も参加している。このレースは非常に歴史のあるレースであり、優勝者の多くがプロで活躍している。レース前に過去に何度もこのレースに参加しているチームの監督らに聞くと、どの監督も「登りはもちろん厳しいが、横風で集団が分断されることが多い」と口を揃える。

第1ステージはLitomericeの街をスタートして27.5kmの周回を3周してまたスタート地点に戻ってゴールする95.5km。周回は登りが4kmほど続く箇所もあるアップダウンコースで、国内のレースならば登りの強い選手が勝つコースではあるが、ゴールまで最後の登りから20kmほどあるのでスプリント勝負になることが予想される。ラスト1.5kmからは日本のジュニア選手にはあまり経験のないロータリーが3箇所あり、集団スプリントの際にはこのロータリーに入る前に集団の前にいることが求められ、午前中にコースの試走を行い、選手も登り部分とゴール前の下見は行なうことが出来た。

レースはスタートしてすぐにペースが上がり、そのまま周回に入る。登りが始まるところで西川が落車に巻きこまれストップ。怪我もトラブルもなくすぐに走りだしたが集団は登りでペースが上がり、数名の選手らと追いかけるが次第に離されていく。午前の試走から脚の痛みを訴えていた池部も登りで遅れ、その後西川らの小グループにも抜かれそのままリタイア。レースはデンマーク、ドイツ、チェコ、ポルトガルがアタックを続ける。27km地点で六峰がスローパンクということで後輪交換。ただ路面が悪くてパンクしたと思ってしまったようで、実際はパンクしておらず無駄な脚を使うことになる。6kmほどで集団に追いつくが、集団は登りでペースが上がり脱落。集団ではアタックがかかり15名ほどが先行。最大40秒差をつけるが集団のスピードも落ちず65km過ぎに集団は一体になり最終回の登りに入っていく。最後の登りで長瀬がアタックを仕掛け、山岳ポイントをトップ通過してそのまま下りへ。そこへベルギーの世界チャンピオン、チェコ、イギリス、オランダの選手らが合流して6名の逃げになり集団に15秒ほど差をつけてゴールへ向けてのアップダウンを進む。しかし前が見通せる道で後ろの集団もペースが上がり、また集団は一体に。単発アタックもあるがどれも決まらずそのまま集団ゴールへ。スプリント力のある黒枝、中井に期待がかかるがゴール前のロータリーでの落車に黒枝が引っかかりスプリント出来ない。優勝はスプリントで抜群のスピードを見せたPoppel。中井が23位。山岳賞を1度1位通過した長瀬が山岳ポイントで3位につける。

第2ステージはMostをスタートしてLitvinovへゴールする98.3km。スタート後20kmで標高差500m登る峠と70km過ぎから600m登る峠があり、2つ目の峠を登り、そのまま下ってゴールなので登りに強い選手が動く1日になる。そしてチェコは道も悪くさらにこの日は雨ということで下りのテクニックも非常に要求されることになる。

スタートしてしばらくは団子状態だったが、25km地点あたりから始まる大きな登り区間前に15名ほどが先行。コースマップでは25kmから登りになるのだが、それ以前からジワジワ登っていくコース。道も悪く雨も激しくなりパンク、メカトラが各チームに続出。15名ほどの逃げグループも3名がパンクの犠牲に。本格的な登りが始まり遅れる選手が多くなる中、こぼれてくる選手に日本の選手は見当たらない。最初の登りを超えた段階でグループはいくつかに分かれるがその後の平坦で集団は再編成され、長瀬、六峰はメイングループに、黒枝、西川、中井は後ろのグループに。集団も長く伸び、道も狭いのでチームカーが長瀬らの先頭グループまでなかなか上げさせてもらえない。その間もパンクが続出で、ニュートラルカーのホイールも尽きたのか、前のグループのパンクした選手も数分間ホイール待ちの状態の選手が多く見られる。登り口の狭い道で集団先頭付近を走っていた長瀬がパンク。運悪く工事区間箇所でチームカーもなかなか上がれず、大幅にタイムロスしたものの諦めずにこぼれてきた前の選手をパスしていく。長い登りをそれほど得意としていない六峰も登りでバラバラになった集団で粘り続ける。レースはチェコ、ロシアの選手が逃げ、そこにスロベニア、デンマークの選手らが合流して最後の下り区間へ。この下りも危険で多くの選手がコーナーで転がっており、草むらから自転車抱えて現れる選手を数人目撃。レースは結局下りで抜け出したロシアのShalunov。六峰は集団らしい集団がなくなるような厳しいレースで2分47秒遅れの47位。不運であった長瀬は最後の下りでも転んでいたようで、7分以上遅れてゴール。

第3ステージは午前のTTと午後のロードレースと2つのセミステージで行なわれた。

午前に行なわれたTrebeniceをスタートゴールする多少の登りを含む平坦基調の11.6kmの個人タイムトライアルでは総合順位の関係で中井、黒枝が続いて出走することになり黒枝のみチームカーから走りを見ることは出来なかった。前日に選手はコースの下見を車でしてあったのだが、その黒枝が途中コースをミスして大幅にタイムを失う。優勝はポルトガルのReisで14分51秒。長瀬が1分33秒遅れで82位が日本選手の最高位。日本の選手はノーマルバイクにアタッチメントバーとディスク、エアロヘルメットであったが、他の国のほとんどがTTバイクを使用していた。しかし機材以上にこのタイム差は脚の差によるものであり、昨年同様日本の選手の独走力の強化が非常に重要である。このタイムトライ

アルでタイムアウトになる選手も5人おり、西川もあと20秒遅れていたらタイムアウトであった。

午後はRoudnice n.Labemをスタートして1周19kmの周回を5周する97kmのレース。標高差100mほどの登り坂もあるが、スピードマンに有利なコース。登りで力勝負するには厳しい日本の選手にとってこのステージは非常にチャンスのあるレース。

このステージは前半から集団のペースも速く、オランダ、イギリス、カザフスタン、イタリア、ドイツらを含む先頭集団が出来るが30秒以上は離れず1周もたずに集団は一つに。その後カザフスタン、イギリスの2人逃げが決まりその後も追撃アタックがかかり、集団は速いスピードで流れ、3周目には集団はまた一つに。この周にまたカザフスタンとフランス選手の逃げが決まり、集団は落ち着き1分ほどの差がつく。4周目に黒枝が落車に引っかかり、メイン集団から遅れたグループに取り残される。追いつきそうではあったがメイングループもアタックがかかり速い展開になり追いつけず。4周目中盤に6名の先頭グループが出来、その後ろに15名、さらにバラバラ追いついた大きな先頭グループが出来、その中に長瀬が入る。ラスト1周に入るところではそのグループも人数を減らして15名になる。この先頭グループから2人デンマークの選手が飛び出し、さらにもう1人のデンマークの選手が合流し3人のデンマーク選手の逃げが決まり、チームタイムトライアル状態で16名の長瀬のグループに一気に30秒差をつける。長瀬のグループも追走がうまく行なえず、そのまま3名のデンマーク選手が逃げ切る。緩い登りでの16名の4位争いスプリントで長瀬は5位でゴールし、このステージ8位。ステージ6位までが獲得できるネイションズポイントにあとわずか届かなかった。

第4ステージはTepliceをスタートして1周28.2kmの周回を2周半してドイツの国境を越えてALtenbergにゴールする85.3kmのコース。標高差600m以上で7kmほどの登りは15%以上の勾配のある箇所もあり、登れる選手しか残れない非常に厳しいコース。コースが急遽変更されて最後の厳しい18%以上の壁坂がカットされたがそれでも十分以上に厳しいコース設定。第2ステージのような厳しい下りではなく高速の直線の下りなので登りでの力だけで勝負が決まる。

登りの始まる10km地点で長瀬が落車。前輪交換して走り出すが、集団はすでに登りで長く伸びている。長瀬は後続選手らを全く違うスピードでぐんぐん追い抜かしていくが、先頭グループはすでに先をいっており、第2ステージと同じく致命的な遅れとなってしまう。1回目の登りで黒枝、中井は後ろのグループに、六峰、西川は1回目の登りのあとにまとまった70名ほどの第1グループに残る。長瀬は70名の第1グループから少し離されたグループまで上がってきたが、あと少しのところで復帰できなかった。2回目の登りで先頭集団はさらにスピードを上げてバラバラに。六峰、西川は第5グループあたりの20名ほどの集団でその後ゴールまでこなして行く。先頭グループでは第2ステージで優勝したロシアShalunovとイギリスの選手が逃げて最後の登りでShalunovが独走し、2位に2分以上差をつけてステージ2勝目。総合でもトップに立つ。六峰、西川は12分30秒以上遅れてゴール。

第5ステージはTerezinをスタートして1周22kmの周回コースを4周してTerezinに戻ってくる101kmのコース。コースには2箇所登りがあり、そのうちの一つは標高差250mの3kmから4kmほどの登りがあり、最終日らしい厳しいコース。レースはスタートから速く、数名の逃げが決まりかけるがなかなか20秒以上の差が広がらず20km地点では集団は一つ。1回目の登りで西川が遅れリタイア。この日はフランス、カザフスタンが非常に攻撃的なレースを仕掛け常に先行グループに選手を送り込んでいる。カザフスタンの1人逃げが決まるが2周目の登り頂上でまた集団は一つに。このスピードにこぼれる選手が続出。中井、黒枝もたまらず遅れだし20人ほどのグループで走っている。3周目には個人タイムトライアルで優勝したポルトガルのReisとフランスのGuyotが抜け出し集団に30秒以上差をつける。長瀬、六峰を含むメイングループは落ち着き、ラスト1周では1分以上のタイム差。ラスト1周の登りでは攻撃がかかり集団のスピードが上がり、さらに選手が少なくなっていく。最後の登り頂上を超えた時点で先頭2人と集団とのタイム差は1分50秒。ゴールまで10kmほどが下りと平坦であり逃げ切りが決定。結局2人は集団に1分20秒差をつけてフランスのGuyotが優勝。長瀬、六峰を含む3位争いのメイン集団は最後の登りで37人までに減っている。ゴール前はこの日の朝に選手とともに通っているが、ラスト1kmで穴もある砂のういた鋭角コーナーがあり、そこの位置争いが非常に重要なポイントであったが、スプリント力のある六峰は7番手あたりの絶好のポジションで通過する際にノルウェーの選手と場所取り争いで絡まり落車。長瀬がこの日15位でゴール。個人総合優勝はロシアのShalunov。完走者95名。

総括　今大会は昨年ドイツのネイションズカップ以上に厳しいコース設定で、どの国の参加選手も8月の世界選手権を見据えたメンバーであり、登れない選手は何もすることが出来ない非常に厳しいレースであった。昨年11月から強化指定選手を集めて合宿を4回行ない、登りの反復練習、タイムトライアルの練習を多く行なってきたが、今回参加した選手はその意味が理解できたことだと思う。その中で長瀬、六峰が総合成績では大きく遅れたもののステージでよい走りが出来たのは収穫であった。そして国内、アジアのレースでは経験できない密度の濃い集団走行も各選手問題なくできるようになっている。今回は非常に強い横風のステージはなかったが、風向きによりレースの動きが変わるということも、選手自身が肌身で体験できたことは今後の選手のレースでの動き方にも大きく影響を与えることでしょう。

昨年から大きな課題であったタイムトライアルにおける海外選手との力の差は今回も大きく、11.6kmのコースで長瀬で優勝者に1分33秒差をつけられている。1kmあたり8秒のタイム差である。西川の場合は1kmあたり17秒の差をつけられていることになる。日本の練習環境事情もあるが多くの国内選手がTTの練習を行なっていない。独走力というのは世界で戦うことを目標にした場合は必ず身につけなければならないものであり、日頃の練習でも取り入れてもらいたい。今回のTTではスタート後に登り区間もあったが、ほとんどが平坦、緩い下りである。ジュニアはギア制限で52×14までしか使えないが、アンダー23になりギア制限がなくなるとこの差はさらに大きく広がることになる。それでも合宿の際に昨年の遠征時に撮影したビデオを見せて、TTでのライン取り、ペース配分、TTヘルメットのレース時の被り方といった基本的なことを説明したが、それらに関しては各選手しっかり行えていた。そのほかレース後の撤収の遅さなどなかなか直らないレース以外の改善点もまだ多くあるので、今後のジュニア遠征、合宿を通して改善してもらいたい。　（柿木 孝之）

※競技結果は前号をご参照下さい。

2010年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ鹿児島大会

金剛東京が２位にはいる。

6月6日に鹿児島県鹿児島市鹿児島アリーナで「2010年UCIサイクルサッカーワールドカップ第２戦」が開催された。

海外から５ヶ国・地域が参加して今年12月にチェコで開催されるワールドカップファイナルのアジア地区代表権をかけて10チームが出場した。優勝したのはオーストリアのRCマツダのブロル兄弟チーム。日本は２位に金剛東京の木下・松田組。３位には関西大学の村上・合田が入った。なお、2011年にはこの鹿児島市で世界室内自転車競技選手権が開催される。

［競技結果］

2010年UCIｻｲｸﾙｻｯｶｰﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ第２戦
鹿児島大会（2010/6/6 鹿児島・鹿児島ｱﾘｰﾅ）

1 RC Mazda Höchst III AUT
Bröll, Thommy / Bröll, Markus
2 金剛東京 JPN
木下　直也 / 松田　鋼
3 関西大学 JPN
村上　裕亮 / 合田　昌司
4 いよかん JPN
平野　賢 / 田中　識史
5 蔵　前 JPN
藤田　洋介 / 時倉　宗大
6 VCE Dorlisheim FRA
Meyer, Benjamin / Rieb, Francois

新評議員の紹介

平成22年度第１回理事会（平成22年6月21日開催）で２名の方の変更が承認されました。

権瓶　修也（新潟）
棟久　明博（山口）

新理事の紹介

平成22年度第１回評議員会（平成22年6月24日開催）で板垣邦厚理事の後任として選任されました。

武　晋一 *タケ シンイチ*
社団法人全国競輪施行者協議会
63歳（学識経験者）

競技大会 結　果

大会名、チーム名等については略して記載

2010 ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙﾏｳﾝﾃﾝﾊﾞｲｸｶｰﾆﾊﾞﾙ ﾕｰｽｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾌﾟﾚ大会 (2010/5/27-30 ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ･ﾀﾝﾋﾟﾈｽﾊﾞｲｸﾊﾟｰｸ)

BMX ｼﾞｭﾆｱ男子

1 長迫　吉拓　岡山 Un Authorized
2 吉村樹希敢　JPN
3 古幡　陵介　JPN

BMX ｼﾞｭﾆｱ女子

1 渡辺　楓　JPN
2 ELGA Kharisma Novanda INA
3 ABDUL NAZZEER NadiahBinte SIN
4 岩出　愛未　愛知 club SY-Nak

MTB 女子 (15.5km)

1 ELGA Kharima Novanda INA　51:05.616
2 岩出　愛未　愛知 SY-Nak　51:34.363
3 TUTUARIMA Wilhelmina INA　51:53.975

MTB 男子 (21.7km)

1 SIANGLAM satjakul THA　1:01:57.212
2 GALEYEV Vadim KZA　1:03:45.378
3 山本　兆　北海道 ﾀﾞﾝｶﾞﾘｰ　1:04:05.636

第23回ﾄﾛﾌｪｵ･ｶｰﾙｽﾍﾞﾙｸ(UCIMJ-2Ncup) (2010/6/3-6 ﾄﾞｲﾂ･ｻﾞｰﾙﾗﾝﾄ)

個人総合成績 (454.4km)

1 CRADDOCK Lawson USA　11:14:43
2 JUNGELS Bob　LUX　11:14:50
3 SÜTTERLIN Jasha GER　11:14:53
58 徳田　鍛造　京都 北桑田高　11:22:31
59 長瀬　幸治　埼玉 栄北高校　11:22:32
76 西川　尚吾　東京 昭和第一　11:39:44
82 中井　俊亮　奈良 榛生昇陽　11:45:21
83 六峰　亘　大分　11:50:28

団体総合成績

1 ｲｷﾞﾘｽ　GER　33:46:19
2 ﾃﾞﾝﾏｰｸ　DEN　33:48:01
3 ｵﾗﾝﾀﾞ　NED　33:48:59
16 日　本　JPN　34:06:38

第 1 ｽﾃｰｼﾞ (112.4km)

1 ZORDAN Andrea ITA　2:44:49
2 KAMP Alexander DEN　2:44:49
3 TEUNISSEN Mike NED　2:44:49
56 徳田　鍛造　京都 北桑田高校　2:47:08
57 中井　俊亮　奈良 榛生昇陽高　2:47:13
66 黒枝　士揮　大分 鹿屋体育大　2:47:48
67 長瀬　幸治　埼玉 栄北高校　2:47:48
109 西川　尚吾　東京 昭和第一学　3:05:15
115 六峰　亘　大分　3:05:15

第 2 ｽﾃｰｼﾞ (111.0km)

1 CRADDOCK Lawson USA　2:48:02
2 GRIGORIEV Alexander RUS　2:48:02
3 JUNGELS Bob　LUX　2:48:02
43 長瀬　幸治　埼玉 栄北高校　2:49:38
76 徳田　鍛造　京都 北桑田高校　2:50:00
82 西川　尚吾　東京 昭和第一学　2:50:12
93 黒枝　士揮　大分 鹿屋体育大　2:50:47
94 六峰　亘　大分　2:50:47
113 中井　俊亮　奈良 榛生昇陽高　3:03:13

第 3-1 ｽﾃｰｼﾞ (10.6km)

1 CRADDOCK Lawson USA　13:24.000
2 JUNGELS Bob　LUX　13:29.460
3 REIS Rafael　POR　13:30.110
66 長瀬　幸治　埼玉 栄北高校　14:44.510
81 徳田　鍛造　京都 北桑田高　15:01.530
96 六峰　亘　大分　15:13.510
99 西川　尚吾　東京 昭和第一　15:20.510
109 黒枝　士揮　大分 鹿屋体大　15:32.020
115 中井　俊亮　奈良 榛生昇陽　15:42.890

第 3-2 ｽﾃｰｼﾞ (98.0km)

1 BOGATAJ Bla　SLO　2:21:32
2 SÜTTERLIN Jasha GER　2:21:32
3 COUTINHO Leonel POR　2:21:32
19 六峰　亘　大分　2:21:32
27 西川　尚吾　東京 昭和第一学　2:21:32
35 中井　俊亮　奈良 榛生昇陽高　2:21:32
46 長瀬　幸治　埼玉 栄北高校　2:21:32
78 徳田　鍛造　京都 北桑田高校　2:21:32
112 黒枝　士揮　大分 鹿屋体育大　2:35:09

第 4 ｽﾃｰｼﾞ (122.4km)

1 SÜTTERLIN Jasha GER　3:07:04
2 ZORDAN Andrea ITA　3:07:06
3 JUNGELS Bob　LUX　3:07:06
45 西川　尚吾　東京 昭和第一学　3:07:25
62 長瀬　幸治　埼玉 栄北高校　3:08:50
63 徳田　鍛造　京都 北桑田高校　3:08:50
85 中井　俊亮　奈良 榛生昇陽高　3:17:41
86 六峰　亘　大分　3:17:41
黒枝　士揮　大分 鹿屋体育大　DNF

第44回全日本実業団西日本自転車競技大会 (2010/6/5-6 大阪･関西CSC)

ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1 北津留　翼　ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ飯田
2 奥平　充男　岩井商会ﾚｰｼﾝｸﾞ
3 林　明宏　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T
4 吉本　哲郎　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ
5 山中　貴雄　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T
6 松村　友和　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ

1km ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1 篠原　龍馬　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T　1:08.670
2 大屋　健司　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ　1:09.226
3 奥平　充男　岩井商会ﾚｰｼﾝｸﾞ　1:09.911
4 辻本　学　岩井商会ﾚｰｼﾝｸﾞ　1:10.466
5 山本　拳也　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T　1:10.523
6 岡田　真　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T　1:10.621

ｹｲﾘﾝ

1 大久保光次　EsperanceStage 我逢人
2 松本　諒太　朝日大学
3 今西　薫　朝日大学
3 石口　慶多　立命館大学自転車競技部
5 矢野　賢児　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T ﾊﾟﾝﾄﾞﾗ
6 松井　響　立命館大学自転車競技部

4km 個人追抜競走

1 大屋　健司　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ　4:56.861
2 武田　直也　朝日大学　4:58.084
3 澤田　賢匠　ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞ　4:58.754
4 山田　哲治　ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ T.T　5:02.501
5 大場政登志　朝日大学　5:06.659
6 阿部　良之　ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞ　5:08.700

ｴﾘﾐﾈｲｼｮﾝ

1 林　次郎　ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ飯田
2 川本　憲一　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ
3 白川　巧　EsperanceStage 我逢人
4 稲川　翔　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ
5 河崎　惠治　岩井商会ﾚｰｼﾝｸﾞ
6 佐野　伸弥　MINOURA 大垣ﾚｰｼﾝｸﾞ

男子ｽｸﾗｯﾁ (8km)

1 大久保光次　EsperanceStage 我逢人
2 西山　知宏　Tacurino.net
3 和田　治恭　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ
4 川本　憲一　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ
5 佐竹　亮太　ﾊﾟﾅｿﾆｯｸﾚｰｼﾝｸﾞﾁｰﾑ
6 原　隆成　ﾁｰﾑｻｲｸﾙﾌﾟﾗｽ

ﾎﾟｲﾝﾄﾚｰｽ (30km)

1 白川　巧　EsperanceStage　44p
2 山下　貴宏　ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞｺﾗﾃｯｸ　37p
3 向川　尚樹　ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞｺﾗﾃｯｸ　35p
4 澤田　賢匠　ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞｺﾗﾃｯｸ　30p
5 西山　知宏　Tacurino.net　26p
6 小牧　祐也　ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞｺﾗﾃｯｸ　14p

ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1 ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ　吉本･松村･武田　1:17.986
2 ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ　篠原英･篠原龍･山中･林明　1:18.185
3 ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ飯田　林次･山脇･北津留　1:19.525
4 Z-1Medalist　連沸･在本･柳谷　1:21.459
5 Esperance　金野･大久保･市村　1:20.807
6 立命館大学　石口･小西･松井　1:21.113

4km 団体追抜競走

1 朝日大　武田直･大場･清水･河合　4:40.719
2 ﾏﾄﾘｯｸｽ　澤田･小牧･向川･山下貴　4:11.654
3 ﾀﾆﾑﾗ　武田和･川本･恵口･大屋　4:49.290
4 ｻｲｸﾙﾌﾟﾗｽ　原･山口･山下哲･石堂　4:50.567
5 ﾏﾘﾝｺﾞｰﾙﾄﾞ　岡田･山田･田畑･山本　4:59.057
6 Z-1　連沸･柳谷･野見･在本　5:13.805

女子 500m ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

1 佃　咲江　Z-1Medalist　38.050
2 白井美早子　ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ飯田　38.855
3 濱田　真子　湘南愛輪会　40.807
4 三宅　悠里　Z-1Medalist　40.910
5 大塚　沙織　湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚ ｺﾑﾚｲﾄﾞ　41.471
6 三井　由香　ﾍﾞﾛﾁｽﾀﾀﾆﾑﾗ　42.778

女子 3km 個人追抜競走

1 濱田　真子　湘南愛輪会　4:15.094
2 鈴木　遊　朝日大学　4:21.427
3 大塚　沙織　湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚ　4:21.988
4 小谷　翠　NCFR　4:36.063
5 白井美早子　ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ飯田　4:41.440

女子ｽｸﾗｯﾁ (4km)

1 佃　咲江　Z-1Medalist
2 森　沙耶香　朝日大学
3 濱田　真子　湘南愛輪会
4 鈴木　遊　朝日大学
5 三宅　悠里　Z-1Medalist
6 白井美早子　ﾎﾞﾝｼｬﾝｽ飯田

第26回全日本学生選手権個人ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ大会 (2010/6/6 長野･美麻)

男子 (163.8km)

1 内間　康平　沖縄 鹿屋体育大　4:32:12

2	野口	正則	奈良	鹿屋体育大	4:32:40
3	越海	誠一	大分	日本大学	4:32:40
4	中尾	佳祐	埼玉	順天堂大学	4:32:40
5	窪木	一茂	福島	日本大学	4:32:40
6	吉岡	直哉	京都	京都産業大	4:32:40
7	吉田	隼人	奈良	鹿屋体育大	4:32:40
8	伊藤	雅和	鹿児島	鹿屋体育大	4:32:40
9	笠原	恭輔	埼玉	中央大学	4:32:57
10	末永	周平	宮城	明治大学	4:34:28

第14回全日本実業団個人ﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ選手権大会（2010/6/13 長野・栂池）

男子 TR（11.7km）決勝

1	狩野	智也	ﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝｱﾝｶｰ	1:23:42.9
2	森本	誠	ｲﾅｰﾒ・ｱｲﾗﾝﾄﾞ	1:24:01.3
3	畑中	勇介	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	1:24:47.5
4	長沼	隆行	宇都宮ﾌﾞﾘｯﾂｪﾝ	1:25:38.3
5	平塚	吉光	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	1:27:07.9
6	鈴木	譲	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	1:27:27.7
7	鎌田	圭介	ﾊﾟｰﾙｲｽﾞﾐｽﾐﾀﾗﾊﾞﾈﾛ	1:28:20.5
8	野寺	秀徳	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	1:28:32.1
9	平林	昌樹	湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚ	1:28:57.0
10	新井	剛	ｲﾅｰﾒ・ｱｲﾗﾝﾄﾞ	1:29:14.7

第49回全日本学生選手権ﾁｰﾑﾛｰﾄﾞﾚｰｽ大会（2010/6/19 埼玉・利根川上流域）

男子（100km）

1	鹿屋体大	伊藤・内間・吉田・山本	2:11:33.21
2	東京大学	西薗・三谷・峠・安井	2:16:22.92
3	日本大学	越海・窪木・逢坂・橋本	2:16:55.92
4	中央大学	堀内・笠原・郡司・石田	2:18:35.05
5	京都産大	木守・山森・吉岡・木村	2:19:28.93
6	順天堂大	半田・中尾・布施・辻本	2:21:08.92
7	環太平洋	小村・小黒・御園井・酒井	2:23:29.98
8	京都大学	宇野・吉浦・奥村・長森	2:23:47.32
9	首大東京	齋藤・畝本・志村・野口	2:23.58.06
10	立命館大	宮腰・吉田・野末・前園	2:26.55.91

第22回全日本学生個人ﾛｰﾄﾞﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ自転車競技大会（2010/6/20 埼玉・利根川上流域）

男子（21.6km）

1	西薗	良太	鹿児島	東京大学	27:54.257
2	大場政登志		岐阜	朝日大学	28:19.733
3	伊藤	雅和	鹿児島	鹿屋体大	28:35.962
4	吉田	隼人	奈良	鹿屋体大	28:36.807
5	高宮	正嗣	鹿児島	鹿屋体大	28:45.347
6	篠崎	友	東京	Muur 0	28:47.741
7	郡司	昌紀	埼玉	中央大学	28:54.448
8	笠原	慶輔	茨城	明治大学	28:55.831
9	内間	康平	沖縄	鹿屋体大	29:03.072
10	大中	巧基	京都	早稲田大	29:23.538

女子（21.6km）

1	明珍	裕子	岐阜	朝日大学	32:40.770
2	井上	玲美	東京	ﾌｫｰｶｽ	32:43.726
3	木村	亜美	鹿児島	鹿屋体大	33:08.772
4	田中	まい	千葉	日本体大	33:16.483
5	川又	千裕	鹿児島	鹿屋体大	33:27.750
6	塚越さくら		鹿児島	鹿屋体大	33:54.373
7	鈴木	遊	鳥取	朝日大学	34:35.590
8	小島	蓉子	千葉	日本体大	34:37.793
9	松橋	未来	青森	立命館大	36:12.873
10	森	沙耶香	大分	朝日大学	36:40.896

第44回全日本実業団西日本ｻｲｸﾙﾛｰﾄﾞﾚｰｽ大会（2010/6/20 広島・中央森林公園）

男子 TR（123.0km）

1	野寺	秀徳	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:08:36
2	畑中	勇介	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:08:37
3	鈴木	真理	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:08:44
4	中村	誠	宇都宮ﾌﾞﾘｯﾂｪﾝ	3:08:45
5	飯野	嘉則	ｼﾏﾉﾚｰｼﾝｸﾞ	3:08:47
6	松村	光浩	愛三工業ﾚｰｼﾝｸﾞ	3:08:53
7	清水	良行	ﾁｰﾑﾌﾞﾘﾁﾞｽﾄﾝｱﾝｶｰ	3:08:56
8	中山	卓士	Eurasia Museeuw	3:08:58
9	五十嵐丈士		Geumsan Ginseng	3:08:59
10	阿部	良之	ﾏﾄﾘｯｸｽﾊﾟﾜｰﾀｸﾞ	3:09:03

女子 FR（36.9km）

1	唐見実世子		MUUR ZERO	1:05:57
2	福本	千佳	Ready Go Japan	1:05:57
3	星川恵利奈		湘南ﾍﾞﾙﾏｰﾚｺﾑﾚｲﾄﾞ	1:05:57
4	北野	寿枝	bicinoko.com	1:09:56
5	西塚	優美	Squadra Corsa	1:11:25
6	坂口	聖香	TEAM POLPO	1:12:06
7	長屋	桃子	ﾊﾞﾙﾊﾞﾚﾃﾞｨｽ	1:12:50
8	釜下	裕子	Sakatani Racing	1:12:52
9	永島	律子	PRESTO	1:14:38
10	長野	恵美	ｴｷｯﾌﾟﾕｰﾚｰｼﾝｸﾞ	1:14:46

MTB J2木島平XCO（2010/6/20 長野・木島平）

XCO 男子ｴﾘｰﾄ（33.6km）

1	松本	駿	長野	TREK	1:36:23.92
2	小野寺	健	京都	Subaru	1:37:10.12
3	斉藤	亮	長野	ｺﾗﾃｯｸ	1:38:15.70
4	佐藤	誠示	埼玉		1:42:40.68
5	合田	正之	埼玉	3UP	1:43:27.03
6	山田	主	長野	GEAX	1:44:02.72
7	大江	良憲	神奈川		1:45:43.30
8	代田	和明	千葉	WING	1:46:23.61
9	久保	伸次	京都	岩井商会	1:47:10.30
10	山辺	誠司	埼玉	埼玉県人	1:47:47.12

XCO 女子ｴﾘｰﾄ（16.8km）

1	片山	梨絵	神奈川	Specialized	55:33.97
2	矢沢みつみ		山梨		1:00:41.94
3	田近	郁美	岐阜	God Hill	1:03:53.76

平成22年度事業計画の追加について

シクリスムエコーNo.168にて掲載しましたJCF事業計画の共催事業の実施について平成22年第1回理事会および第1回評議員会にて下記2大会が追加承認されました。

（10）ツール・ド・熊野2010
（NPO法人スポーツプロデュース熊野）

（11）2010ジャパンカップサイクルロードレース大会
（宇都宮市、NPO法人ジャパンカップサイクルロードレース協会）

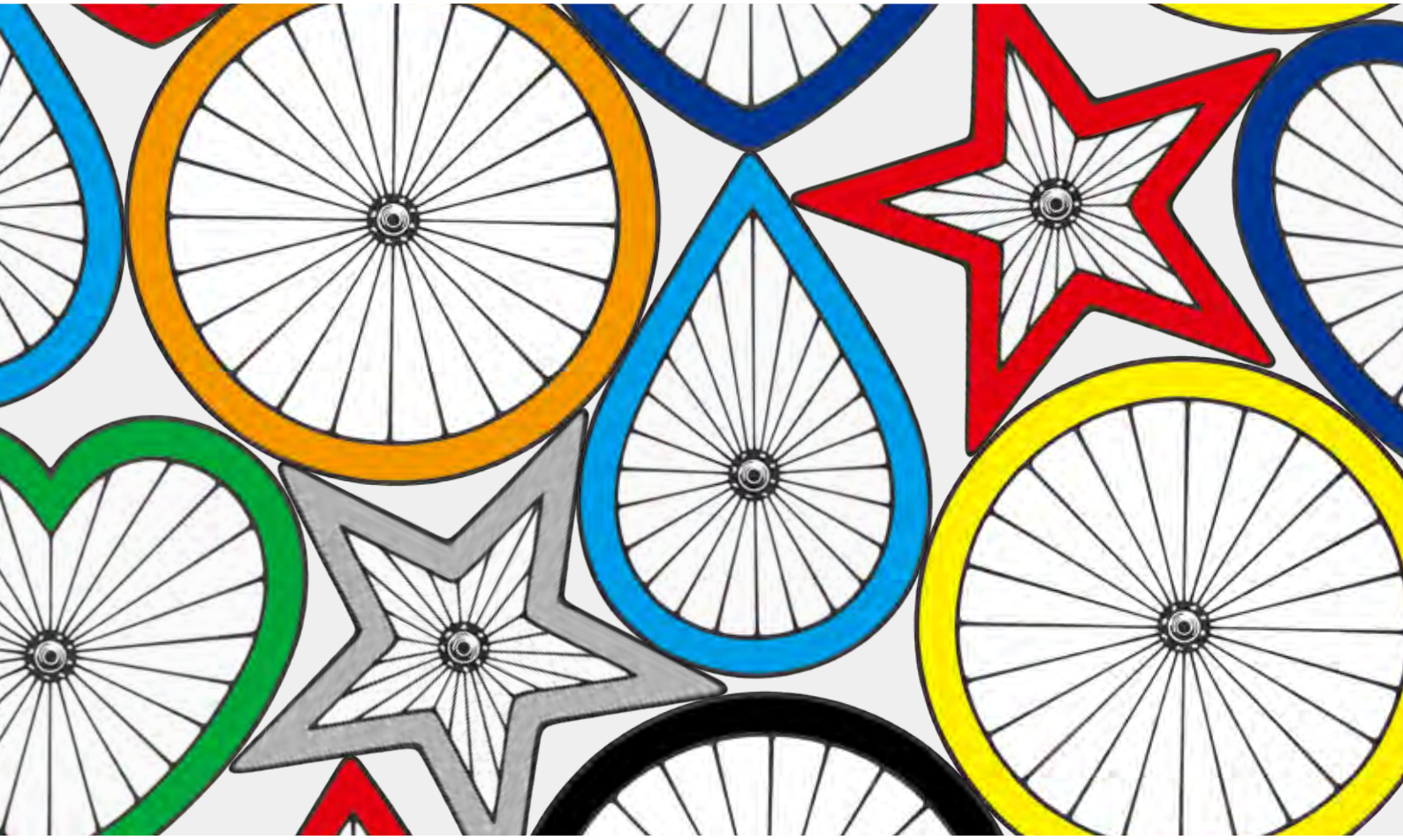
日本新記録

■ チームスプリント・400m×2
女子ジュニア　1分03秒432　日本チーム（丸田京、中村妃智）　2010/06/13　北海道・函館

■ スタンディングスタート・3km 団体
女子シニア　3分52秒103　日本チーム（井上玲美、田中まい、上野みなみ）　2010/06/12　北海道・函館

連盟の動き（6月上旬～6月下旬）

6月 1日	ロード強化合宿　（～6/9）	千葉・鴨川市
8日	平成22年度第3回広報部会	東京・日本自転車会館3号館3階
10日	平成22年度第1回総務委員会	東京・日本自転車会館3号館3階
	平成22年度第1回常務理事会兼選手強化本部会	東京・日本自転車会館2号館801会議室
16日	第1回JCF法人改革検討委員会	東京・日本自転車会館2号館801会議室
17日	平成22年度第2回常務理事会兼選手強化本部会	東京・日本自転車会館3号館4階
21日	平成22年度第1回理事会	東京・日本自転車会館3号館4階
23日	ACCトラックアジアカップ2010 第2戦日本代表選手団	マレーシア・クアラルンプール　→帰国6/29
24日	平成22年度第1回評議員会	東京・日本自転車会館2号館802会議室
28日	トラック中距離合宿　（～7/2）	静岡・日本CSC
	熊本国際ロード実行委員会	熊本・山鹿市



夢への補助輪。
RING! RING! プロジェクト
競輪の補助事業
詳しくはウェブサイトをご覧下さい。ringring で 検索 http://ringring-keirin.jp
財団法人JKA

男子ジュニア チームスプリント1位の坂本･大西･木村（左から）

男子チームスプリントの2位深谷･雨谷･北津留（左から）

＜JCF オフィシャル・スポンサー＞

PEARL iZUMi　ANCHOR　AEON　OGK KABUTO　伊藤超短波

＜JCFオフィシャル・サプライヤー＞

JAL　Vittoria　CYCLOCHANNEL

シクリスムエコー No.171　2010年7月号

発　　行／財団法人日本自転車競技連盟
発 行 人／岩 楯 昭 一
編 集 人／井 関 康 正
編集事務局／財団法人日本自転車競技連盟事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内
TEL03-3582-3713　FAX03-5561-0508　http://www.jcf.or.jp/

KEIRIN
この資料および の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。
©（財）日本自転車競技連盟2010本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。
※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。